



開催日時：平成 28 年 1 月 30 日（土）13 時 00 分～15 時 00 分

開催場所：霞ヶ浦環境科学センター

講 師：<前半> 霞ヶ浦環境科学センター 環境活動推進課 岡崎 和也

<後半> アクアワールド茨城県大洗水族館 魚類展示課 金高 卓二先生

参加者：24 名

プランクトンは、どんな生き物か。

プランクトンと聞くと、池や沼などぬまにいる小さな生き物をイメージしてしまいます。しかし本当は、大きさは関係ありません。

水中をただよう生き物で、泳ぐ力およをもたないか、もっていてもその力がとても弱いものをさします。
金高先生きんたかによれば、プランクトンは次のように分けることができるそうです。



傘を広げたエフィラ
ミズクラゲの幼生です

プランクトンの分類のしかた いろいろ

たんさいぼう たさいぼう くべつ
単細胞と多細胞の区別。

たんすい くべつ
淡水にすむものと海水にすむものの区別。

いっしょう いちじき くべつ
一生プランクトンであるものと一時期だけプランクトンであるものの区別。

植物と動物の区別。

湖のプランクトンの観察 - 霞ヶ浦のプランクトンを観察 -

霞ヶ浦かすみがうらにすんでいるプランクトンの観察です。まず最初は、動物プランクトンです。この日多く観察されたのは、大型おおがたのミジンコ、オカメミジンコでした。スポイトを使ってつかまえるのが大変でした。

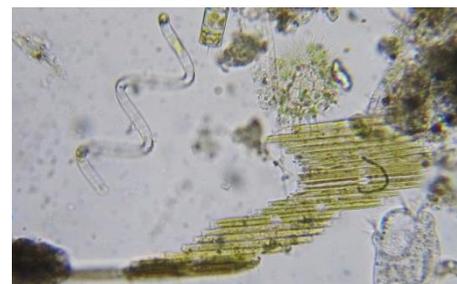
双眼実体顕微鏡そうがんじつたいけんびきょうを使うと、アオミドロの林に引っかかったようにも見えました。触角しょっかくを使って泳ぐようすや、体の中で心臓が動くようすが見えました。

次に植物プランクトンの観察です。多かったのはケイソウのなかまのアウラコセイラなど。緑藻りょくそうのなかまのミカツキモも見られました。参加者が見つけたレアめずら（珍しい）なプランクトンとしては、8つの細胞がつながったイカダモや、植物なのに活発かつぱつに動くクサリケイソウでした。



オカメミジンコ

上から光を当てるとこんな見え方に。



移動中のクサリケイソウ
左側にはアウラコセイラ（パネの形）



「大きくなったら何になるでしょう？」 「はい。」

「このプランクトン，大きくなったら何になる？」クイズは，なかなか難問なんもんでした。みなさん，いくつ当てることができましたか？

アルテミア，シオミズツボウムシ，イサザアミたくさんの海のプランクトンを観察しました。海の中は，カイアシ類の数が多いようです。

ミズクラゲが大人気 でもプランクトンじゃない時期もあります

参加のみなさんが最も関心を寄せていたのが，ミズクラゲでした。その一生いっしょうは，人間の私たちから考えると，とてもヘンな感じです。

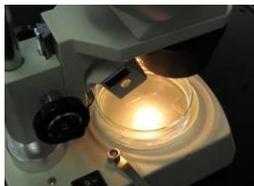
あるときは卵たまごで，次に底生生活ていせいせいいかつ（ベントス），それからプランクトンになります。

この日，センターに来たのはエフィラえひら（幼生ようせい）とミズクラゲみずくらげ（成体せいだい）でした。



けんびきょう そうが んじつたいけんびきょう
顕微鏡，双眼実体顕微鏡，

ルーペを使って観察しました



<参加者の声> アンケートより一部紹介

- ・くらげがかわいかった。
- ・よく見え，楽しかった。お話しもわかりやすかった。
- ・是非，又参加したいと思います。

観察したプランクトンたち，湖でも海でも豊かな生態系せいたいけいの土台どだいとなっています。

みなさん，お疲れ様でした。